

日本全国に狸が登場する民話は数多くありますが、その中でも特に有名なのが『阿波の狸合戦』です。この話は藩政時代の小松島を舞台にした民話で、話の真偽はともかく、この中に登場する染物屋の主人・茂右衛門は実在の人物。明治末期に大坂の講談師が演題に取り入れて一世を風靡したことから、講談本と茂右衛門の直系の子孫・梅山家に残る言い伝えをもとに、昭和十三年「天下分け目の阿波たぬき合戦」(新興キネマ・後の大映)が映画化され、空前の大ヒットとなりました。

そのお礼にと、当時の映画関係者らが日峰山麓に金長大明神という小さな社を建てたのが、金長神社の始まりです。戦後、再び映画化されて大ヒットし、大映の永田雅一社長らの寄付によって昭和三十三年(一九五七)現在の場所に金長神社が建てられました。以来、商売繁盛の守り神として多くの参拝客でにぎわっています。

この他にも、金長の名の付くものは市内の至る所にあり、遊歩道の壁面やバスをはじめ、紙芝居や芸能、食堂やお菓子と大活躍しています。平成元年には、市内の新港郵便局が改名して「金長たぬき郵便局」が誕生しました。動物の名前についた郵便局は全国で初めて、オリジナルのためぎ形の風景印や狸の絵はがき、ふみカードが人気を呼んでいます。

また、平成三年には、市内の若

者達によって金長狸をイメージした「金長太鼓」が結成され、これまでの和太鼓のイメージを打ち破る、陽気で明るく愉快な演奏を披露しています。平成十年(一九九七)には、金長民話を語り継ぐ市民講談師を育てようと「阿波狸合戦講談語り部養成塾」を開講するなど、市をあげて狸のまちのイメージづくりに取り組んでいます。



A famous folktale in Komatsushima, "Awa no tanuki gassen" was cinematized and it was a hit. The heroic character, a raccoon dog called "Kincho Danuki," has been loved by people as a God of flourishing business, and we are working on to form a community by making use of the raccoon dog, the symbol of the city.

たぬきのまちづくり

Chapter
IV

民話『阿波の狸合戦』の舞台となった小松島市では、
金長狸は商売繁盛の神様として人々に親しまれ、
狸をテーマにしたユニークなまちづくりが行われている。



成川琢治さん
小松島市創作太鼓振興協会 会長

小松島市創作太鼓振興協会は、「ふるさと創生二億円事業」の小松島市の地域づくり団体として、奇しくも小松島市が市制を施行して四十周年を迎えるという節目の年に産声をあげました。

私たちは、源義経の行軍をイメージした勇壮な和太鼓曲、「義経太鼓」と小松島では有名なたぬきの「金長」をモチーフに陽気な阿波の国の「阿波踊り」に象徴される浮かれた様子を表現した「金長太鼓」の二つの創作太鼓を演奏しています。

最近の主な活動として、平成十五年には「ねんりんピック総合開会式」、平成十六年には「住みたくなるまちづくり全国交流大会」、平成十九年には第二十二回国民文化祭「和太鼓フェスティバル」、平成二十二年には「第四回義経・与・合同サミット」などのイベントに参加し、小松島の伝統と文化を伝えていきます。

日本太鼓は、近年、郷土を代表する伝統芸能として、また「日本の心」を伝えるものとして見直されており、創設から二十年が経過し、人間で言えばようやく大人の仲間入りをした私たちにとって、まだまだ未熟な演奏・演出ではありますが、日本太鼓の伝統を正しく継承、保存し、更には、新たな創作活動の普及、振興を図り、文化芸術を発展させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。